



今年初めての清水さんでの宣伝署名活動。寒い中を頑張る。



(548号付録)  
 京都版 第415号  
 2020年2月15日

治安維持法犠牲者  
 国家賠償要求同盟  
 京都府本部  
 〒604-8854  
 京都市中京区壬生仙念町  
 30-2 労館5階  
 国民救援会京都府本部内

# 5月国会請願の成功へ 署名と会員拡大の成功を！ 国民無視、議会軽視の安倍暴走政治に 決着をつけましょう！

**国賠署名の国会請願は5月！**

治安維持法による犠牲者への謝罪と補償を求めて、1974年以来、毎年粘り強く署名を集め、国会請願を行っています。今年の国会請願は5月です。

署名活動は、国民の皆さんへ働きかける最も基本的な活動であり、私たちの運動を国民的な運動に発展させる活動でもあります。

**改憲反対の新しい署名開始！**

新年から新しい署名用紙を使い、改憲発議に反対する緊急署名を展開することになりました。

京都では、2月26日にキャンパスプラザで午後6時半から「安倍9条改憲NO！改憲発議に反対する全国緊急署名」スタート集会が開かれます。

「治安維持法の犠牲者に国は謝罪と賠償を」、「再び戦争と暗黒政治を許さない」と訴え闘っている私たち同盟にとって、「戦争する国づくり」をすすめる安倍政権を絶対許すことができません。国賠署名と改憲NO！の署名を集めましょう。

# 父の記

## この文を亡き母に捧げる (3)

山本 隆

生、日本人や新中国のためにも帰国を延期して残って欲しい』と船中必死に懇願されたのです。「意を決した山本さんは、家族を船中に残し、別れの言葉も交わさず、決然と下船されて

しまったのです」と革新京都の先駆者たちにも書いています。

この話が事実かどうか確証はできませんが、引揚リストは日本語、ロシア語、中国語によって作成され厳密な乗船員数のチェックがされたのは事実である。引揚当時の状況は大連 空白の六百日(富永孝子)に詳しい。

また父と親戚関係でもあった藤井洋二さんは、「(九・三事件で)山本弘も逮捕されている。このために一年留学して卒業、直ちに中国東北部の大連日赤病院・同市立病院に派遣され、小児科医師として勤務した」

「一九四九年には中国人解放軍とその政府の要請を受け、前記の病院のほか旅大市児童病院や重慶市立工人医院などの小児科医療に参加し、

中国の医療内容の改善や医療技術者の養成にも協力している」と紹介している。「(左京の十五年戦争)」として、大連市での山本弘を直接知る人間としては、当時大連の日本人労働組合幹部であった石宮清倫氏の著書「わが異端の昭和史・上」に、多くの日本人が帰国を志したなかで「消費組合は合作社と改称して五つの地区に置き、三カ所に診療所を設けた。最後まで働いた山本医師は帰国後京都で民主診療にあたったそうである」と述べている。他にも大連市で生まれ帰国後、伊藤忠商事に勤務した商社マン岡島和生氏は「(一九四八年)結婚し妻のお腹が大きくなったので、今度は西通の電車通りに面した民衆病院の二階裏側に移った。ここには、階は單身残留していた山本医師、私達、(中略)二階の部屋では時々党组织の会合らしいものが開かれていた」「民衆病院の山本医師は頼りな相談相手だったので、早く帰国して勉強を始めるべきか相談したが、先生は「貴方の語学の才能は素晴らしい。数カ国語

をこなせて、しかも華麗な日本語に翻訳出来、貴方が間に立ち双方に満足させているその仕事は大事だ」と忠告してくれた。ここで私は医学への素練を涙を振り切つて捧げることにした」と自伝「試練と幸運」に記している。

父は自らの職歴について、一九四六年七月大連市立病院、一九五二年六月旅大市児童病院、一九五三年一月重慶市立工人医院に勤務したとの簡単なCVを残している。

父が中国に残った理由は？  
問題は、どうして父は一人で中国に残ることになったのかである。

父の帰国は一九五五年。中国新政府のなかでどのように過ごしたかは不明である。一九四七年の引揚げ以降も何回か帰国された方もおられたが、実際には戦後十年間にわたり中国での生活を送る。どう判断したらよいのか。どう受け止めたらよいのか。帰国を待ち二日も早く家族のもとへ帰つては思わなかったのか。いろいろな方の大連での父の様子が

大連時代から帰国までの父の軌跡が大連時代の父について何人かの方が語っておられる。例えば元京都民医連事務局長岡本康さんは「山本さんは、一九三九年三月、京大を無事卒業し、小児科に入局しますが、三ヵ月後に日本の植民地に送られていた中国大連の日赤病院に派遣されました」

「それからの二年間、日本人居留民組の病院と中国人の病院とを、かけもちして日夜働きぬいたのです」と記し、「一九四七年帰国を決心(家族とともに帰国船に乗る込んだが)、いよいよ船が出発しようとき、息を引き切つて中国人の代表船内に飛び込んだ。山本さんに面談を申し入れ「日本人居留民組がつくった病院に、医師がいなくなると困ると、今大騒動になっている」『さうか先

わかるにつけ、一般的な生活安全のために残留したのではないことは確かかならざるを得ない。人道的な観点から残留を選んだことも考えられる。

一番の問題は、思想的には戦前に治安維持法違反で起訴されたことと合わせ、中国での革命を直近に経験し、社会革命への確信は一層強くなったことであろう。帰国後、我が家に父を訪ねてくる方は八路軍の兵隊として戦い全滅しちかいかいからからろろして生き帰った方もいた。また父とともに帰国した方の中には、人民解放軍の医療関係に携わって軍隊と行動をともにした方々もおられた。その人たちは新しい中国での生活を「誇り」として語っている。父も革命後のはじめのメーデーの様子を「ボロをまこった労働者も農民が目を輝かせ行進するエネルギーに圧倒された」と聞かせてくれたことがある。

同時に、革命直後の人民中国という国から見た日本すなわちアメリカの占領下であったこと、朝鮮戦争の出撃基地としての役割を担ったこと

となりの情勢が、日本国内の政治動向や家族を取り巻く状況についても不確定な判断をせざるを得ない制約があり、自らの運命を決める判断が「帰国」といつころにはならなかったのではないかとと思われる。帰国すべきかどうか迷いつつ、目の前で進行した中国革命への新鮮な受け止め、医師としての使命が帰国を遅らせたのではないか。

多くの帰国者が様々な角度から当時の状況を「体験」として語るように、父も歴史に翻弄された「中国生活十一年」の体験者・証言者であることを忘れてはいけない。肉親としての正直を思いである。

いまは当時の状況を知る方の多くがすでに鬼籍に入られている。もう個人の力量では知るすべも限られたものになってしまった。

最後に

この文章を書くにあたって翻訳された中国の文献にもあった。当時の支配者のスターリンや毛沢東が歪めた社会は全く違った、中国革命

の歴史とはこのよまなトランジックな出来事の積み重ねを感じた記述があったので紹介する。

「(中国東北部で)最初にソ連軍に出会った八路軍の将兵は二人一人興奮を露わした。(中略)ところが八路軍がソ連軍に向かって拍手をし、『赤軍歓迎』のスローガンを叫んでも、どういつわむか『冗責』は全く無表情で、それどころか銃口を向けて警戒した。当時の八路軍は正規の軍服と標識がなく、武器もカフクタ同然で、ソ連軍は何の軍隊に会ったのかさっぱり見当がつかなかったからだ。話が通じないため、襲撃の一策として、八路軍は『インターナショナル』を歌った。銃口の前で『インターナショナル』を歌うのは滑稽な光景だが、この双方とも熟知するメロディによって、ソ連軍は初めて相手がインテオロギー上の『同志』であることに気付いた。」(『一九四五年満州進軍』徐炳著・朱建榮訳 三五館)

著者 一九四七年生まれ

京都市西京区在住

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟員



## 京丹後支部「新年のつどい」を開く!

京丹後支部は、1月18日、「新年のつどい」を開催。20人が集まり、2020年を大きく前進させる、決意を新たにすつどいとなりました。

原田完府本部会長の激励文、福代慶典党地区委員長から連帯と激励メッセージ、そして、国會議員からも連帯のメッセージを頂き、今年の課題や同盟への期待も寄せられ、元気の出るつどいになりました。

支部代表、松村副支部長の挨拶では、支部結成10年の実践に確信を持ち、昨年の全国大会で提起された2020年代をどう闘うかという方針を正面に受け止め、今年6月の第12回支部総会成功に向かって、同盟活動の前進と、当面している4月の市長・市議選を大いに頑張ろうと

提起されました。

創立50周年記念映画「種まく人びと」の鑑賞後、東理代吉顧問の音頭で今年を大きく前進させようと乾杯(お茶)、映画の感想や新年の決意を出しあいました。

発言では、今年安保条約から60年、大学に入ったが教授も学生も毎日デモで授業もなく、デモに参加する中で政治に目覚めた・・・

労組結成が相次ぐ中で、会社と闘い成果をあげた・・・

コメの検査官が農家に強制的に供出させる姿が滅した・・・など、自分の人生・原点を思い起こし、これからも頑張ろうとする発言が続きました。

生健会幹部からは、集まる方の署名をすすめてきたが、同時に、集めてもらう努力を始めたなどの発言もありました。

◆当面の活動について支部代表

の提起。

○請願署名について。4月末まで3カ月余、最終盤へ全同盟員の力結集を!

今年度(2019年度)の署名集約の締切の4月末まで、あと3カ月余に迫りました。現状は、1000筆近くまで到達していますが、団体協力などを見

越しても、昨年を大きく上回る状況ではありません。ダッシュ5筆の提起に対応して150筆、100筆、30筆の先進者を含め約40名の成果で1000筆近く

となっていますが、全同盟員の協力を頂かないと昨年の1400筆を突破し、2000筆に届きません。今一度、以前に届け

た署名用紙を引き出して、取り組んで頂きますよう訴えます。○1・26「会・新春のつどい」に参加しましょう!

峰山・コミニティーホール1月26日(日)に「新しい京丹後

市をつくる会・新春のつどい」市が開かれます。市長選(市議選も)4月19日告示に向け動きが急展開しています。「会」は、

「市民が主人公」の立場で4点の基本政策と三崎市政の転換を掲げ活動を展開しています。多くの同盟員が参加されますよう訴えます。

○今年の「倉岡愛穂」墓前祭について。

市長・市議選の関係で、4月9日(木)命日の午後を、実行委員会に提案予定です。

